

平成 30 年度社会福祉法人博愛会事業報告書

当法人の経営理念・方針に基づき、高齢者介護・児童福祉を実施するにあたり、地域に信頼される質の高いサービスの提供を目指して事業を行ってきた。事業の実施状況は次のとおり。

1. 法人事業計画の実施状況

- 〔1〕 中長期経営計画の策定
- 〔2〕 近隣法人連携による人材育成及び地域支援対策の実施
- 〔3〕 ICT 活用による職場環境の改善対策
- 〔4〕 指定管理者施設の運営管理
- 〔5〕 保育所すくすく園の施設整備に向けた具体的検討
- 〔6〕 法人監事による事業所中期監査

2. 理事会、評議員会の開催状況

- 〔1〕 理事会で議決された平成 30 年度事業計画及び予算をもとに、定期的な理事会において事業の進捗状況について報告をおこない承認を得た。
- 〔2〕 6 月の定時評議員会では、平成 30 年度の計算書類・財産目録について承認を得た。

3. 情報公開、開示

インターネット上のホームページを利用し、当法人の事業状況及び財務諸表について情報の公開をした（財務諸表については、平成 24 年度分から開示している）。

4. 苦情解決にかかる苦情対応

苦情への円滑な対応を図るために、第三者委員、苦情解決責任者及び苦情受付担当者として構成する苦情解決委員会を年 2 回開催し、苦情の内容や解決結果について共有・検討し改善を図った。

5. 各事業総括

〔1〕 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

平成 30 年度の介護保険の改定では、2025 年に向けた多様なニーズを想定した重度化対応・自立支援サービスの実現との方向性が示され、利用者の健康管理に努めると共に、自立支援を目指したケアも継続し、要介護状態の軽減、悪化防止に取り組んできた。

健康管理においては、健康状態の指標となる口腔・食事状況についての委員会を立ち上げ、日々の食事の状況を観察し変化があれば早期対応に努めた。また、昨年発生があったインフルエンザ等の感染症についても流行時期前の職員への注意喚起の他、感染管理認

定看護師を招いての研修会を開催し高齢者施設における具体的な対応策について学び実施したことで感染症に罹患する利用者はいなかった。

〔2〕短期入所生活介護事業所会津みどりホーム

特養入所要件が要介護 3 以上となり、在宅サービスの要の一つとしてショートステイの需要が更に増している中、部屋の空き情報や広報誌「スマイル便り」を毎月配布し、ケアマネージャーへ随時情報を発信した。また利用者の体調変化や状況などその都度電話や訪問し報告するなど情報共有を心がけ、新規の紹介を依頼することで年間新規利用者 94 人の実績となった。新規受入れについては、認知症状の重い方や医療ニーズの高い方なども積極的に受入れ、他機関や他職種連携を図り、個別対応を中心に支援した。

〔3〕会津みどりホームデイサービスセンター

毎月定期的に居宅介護支援事業所を訪問し、ケアマネージャーへの情報共有やデイ通信により利用状況や空き状況の発信、利用者、家族との密な情報共有を行ない、個々のニーズに合わせたサービスの提供に繋げていった。又、季節行事やイベント食の充実、日常生活動作の中から自分で出来る所を行なって頂き、役割を持って生活していただける様支援してきた。

〔4〕居宅介護支援事業所会津みどりホーム

平成 30 年度は、職員の異動や新人職員の指導により新規利用者の件数を調整したことで、新規件数は昨年より 6 件少ない 46 件となり、のべ利用者数は 2081 件となった。

複数の居宅支援事業所との事例検討会を 8 月に開催したことで、介護支援専門員の資質向上が図れた。入院時の医療連携としては、速やかな情報提供を行なうとともに、退院時には医療・介護サービス事業所と協働し在宅復帰に向けての支援が提供できた。

〔5〕会津若松市若松第四地域包括支援センター

担当する 4 地区の高齢者の総合相談の窓口として支援活動を行って来た。

年間通してスタッフの個々の専門性を高める為の研修参加の機会を持ち、その内容を包括内での伝達研修という形で、他のスタッフにも伝えてきた。CM研修会、地域ケア会議、認知症サポーター講座、自立支援ケア会議などの様々な場面で多職種との連携を図り、対象となる方の支援を強化してきた。

〔6〕会津若松市片柳デイサービスセンター

家族、各関係機関との情報交換を密にし、在宅生活が安心して継続できるよう支援してきた。また、新たなレクリエーション、季節感のある行事や施設外活動、バイキング食等利用者の方々の気分転換や楽しみ作りを実施した。平成 31 年度はより魅力あるサービ

スの提供とサービスの質の向上の取り組みを行ない新規利用者の確保に努めていく。

〔7〕 会津若松市南花畑デイサービスセンター

会津若松市の指定管理者として通所介護事業を運営し一年が経過した。準備期間の短さに加え、前法人との引継ぎも充分でなく、地域との関係性も薄いなか試行錯誤で事業を開始した。常に利用者・家族が安心して利用できるよう情報交換を積極的に交わしながら信頼関係の構築に努めた。職員と利用者・家族との信頼関係も深まり、地域住民とも挨拶や会話を交わす場面も増え、当法人が地域に少しずつ溶け込めてきた。施設設備については開設から20年が経過し、施設設備不具合が多くあり、市担当者や修繕業者等との連絡調整により是正改善を実施してきた。

〔8〕 博愛園

平成30年度は、博愛園での年間の入所率は定員に対して120%となっている。子どもに多くの出会いと体験を与え、保育・教育の質の向上と、子どもたちが安全で、安心して過ごせるように、施設設備の点検、修繕に取り組んできた。

保育・教育の向上のため、職員はより多くの研修を受講し、現場にフィードバックしたり、共有したりできるようにしてきた。

〔9〕 すくすく園

新保育所保育指針を基にした保育内容と環境づくりに努める中で、職員の質向上のための外部研修だけでなく博愛園との合同研修会を実施し現場の意識向上を目指した。また、他法人の保育園との交流も行うことで自園の保育を確認し見直す学びが出来たことを次年度へも繋げていく。

安全な環境を保てるよう老朽化した設備や遊具の日々の点検や業者定期点検を行うとともに、防災用の保存食の入替えと補充を行った。また危機管理マニュアルを新しく作成し職員の共通理解と周知に努めた。

事業報告の詳細につきましては、各事業所に閲覧用の資料を備えておりますので、ご希望の方はお気軽にお申し出ください。